

# 平成 23 年社会生活基本調査結果の概要

平成 25 年 3 月  
広島県総務局統計課

## は し が き

社会生活基本調査は、統計法に基づく基幹統計調査で、昭和 51 年以來 5 年ごとに行われており、その 8 回目に当たる調査を平成 23 年 10 月 20 日現在で実施しました。

この結果の概要は、調査を所管する総務省が公表した結果を、本県の概要として取りまとめたものです。

平成 23 年社会生活基本調査の結果をみますと、平成 18 年と比べて男女共に睡眠時間や仕事時間は減少となっていますが、家事関連時間は増加となっています。

また、平成 18 年と比べて学習・自己啓発・訓練やボランティア活動を行った人などの割合は上昇となっていますが、スポーツを行った人の割合は低下となっており、生活時間や生活行動の変化が見受けられます。

結果の全容については、総務省刊行の社会生活基本調査調査報告と併せて御活用いただければ幸いです。

終わりに、調査の実施に当たり御回答をいただいた世帯の皆様をはじめ、市町、その他関係者の方々に対し厚くお礼を申し上げますとともに、今後とも一層の御協力をお願いいたします。

平成 25 年 3 月

広島県経営戦略審議官 田 邊 昌 彦

## 【目次】

調査の概要	1
利用上の注意	1
生活時間に関する結果	2
1 概況	2
2 1次活動	3
(1) 1次活動	3
(2) 睡眠時間	3
3 2次活動	4
(1) 2次活動	4
(2) 仕事	5
(3) 家事関連	6
(4) 家事時間	7
(5) 育児時間	8
4 3次活動	9
(1) 3次活動	9
(2) 休養等自由時間活動	10
(3) 積極的自由時間活動	10
(4) 交際・付き合い	11
生活行動に関する結果	12
1 概況	12
2 学習・自己啓発・訓練	13
3 ボランティア活動	15
4 スポーツ	17
5 趣味・娯楽	19
6 旅行・行楽	21

## 【調査の概要】

社会生活基本調査は、生活時間の配分及び自由時間における主な活動について調査し、各種行政施策の基礎資料を得ることを目的として、平成 23 年 10 月 20 日現在で実施した。

この調査は、統計法に基づく基幹統計調査として、昭和 51 年以来 5 年ごとに行われており、平成 23 年調査はその 8 回目に当たる。

この調査の対象は、全国の指定する約 6,900 調査区（広島県で 137 調査区）内に居住する世帯から、無作為に選定した約 8 万 3,000 世帯（同約 1,700 世帯）の、10 歳以上の世帯員約 20 万人（同約 4,300 人）で、調査員が調査世帯ごとに調査票を配布、収集及び質問することにより、調査を行った。

この概要は、総務省統計局による平成 24 年 7 月、9 月及び 12 月付け調査結果の公表を受けて、広島県の結果についてとりまとめたものである。

## 【利用上の注意】

- 1 生活時間に関する結果では、特に断りのない限り、総平均時間<sup>1)</sup>及び週全体平均<sup>2)</sup>（以下「週全体」という）の数値を記載している。
- 2 統計表の数字は、表彰単位未満の位で四捨五入してあること、また、総数に分類不能、不詳の数を含むことから、総数と内訳を合計した数値とは必ずしも一致しない。
- 3 統計表中の「0」、「0.0」、「0.00」は、集計した数値が表彰単位に満たないものである。
- 4 統計表中の「-」は、該当の行動者が皆無のため省略している箇所である。
- 5 統計表中の「・・・」は、当該属性の標本数が皆無のため表章していない箇所である。

---

1) 該当する種類の行動をしなかった人を含む全員の平均

2) 曜日別結果を平均して算出

## 【生活時間に関する結果】

### 1 概況

1日の生活時間をみると、1次活動<sup>1)</sup>時間は10時間38分、2次活動<sup>2)</sup>時間は7時間1分、3次活動<sup>3)</sup>時間は6時間21分となっている。平成18年と比べると、1次活動時間は1分減少、2次活動時間は8分減少、3次活動時間は9分増加となっている。(表1-1)

15歳以上の人について、昭和61年と比べると、1次活動時間は11分増加、2次活動時間は44分減少、3次活動時間は33分増加となっている。(図1-1, 表1-2)

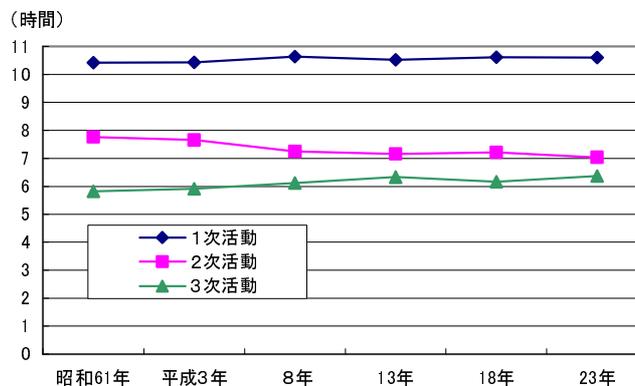
表1-1 男女、行動の種類別生活時間(平成18年, 23年) - 週全体

	平成18年			平成23年			増減(平成23年-平成18年)		
	1次活動	2次活動	3次活動	1次活動	2次活動	3次活動	1次活動	2次活動	3次活動
総数	10.39	7.09	6.12	10.38	7.01	6.21	-0.01	-0.08	0.09
男	10.33	7.12	6.14	10.33	6.58	6.29	0.00	-0.14	0.15
女	10.45	7.06	6.09	10.42	7.03	6.15	-0.03	-0.03	0.06

表1-2 行動の種類別生活時間の推移(昭和61年~平成23年) - 週全体, 15歳以上

	(時間, 分)		
	1次活動	2次活動	3次活動
昭和61年	10.25	7.46	5.49
平成3年	10.26	7.39	5.55
平成8年	10.38	7.15	6.07
平成13年	10.31	7.09	6.20
平成18年	10.37	7.13	6.10
平成23年	10.36	7.02	6.22

図1-1 行動の種類別生活時間の推移(昭和61年~平成23年) - 週全体, 15歳以上



- 
- 1) 睡眠, 食事など生理的に必要な活動
  - 2) 仕事, 家事など社会生活を営む上で義務的な性格の強い活動
  - 3) 1次活動, 2次活動以外で各人が自由に使える時間における活動

## 2 1次活動

### (1) 1次活動

1次活動をみると、睡眠時間は7時間36分、身の回りの用事の時間は1時間23分、食事の時間は1時間39分となっている。平成18年と比べると、睡眠時間は8分減少、身の回りの用事の時間は7分増加、食事の時間は変動していない。(表2-1)

15歳以上の人について、昭和61年と比べると、睡眠時間は15分減少、身の回りの用事の時間は23分増加、食事時間は2分増加となっている。(図2-1、表2-2)

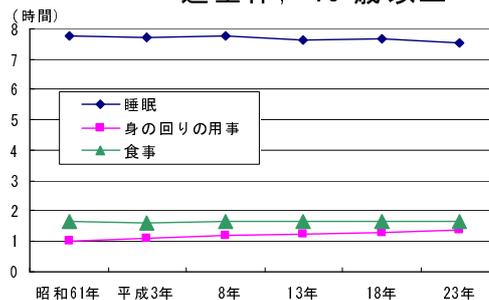
表2-1 男女、行動の種類別1次活動時間(平成18年, 23年) - 週全体  
(時間, 分)

	平成18年			平成23年			増減(平成23年-平成18年)		
	睡眠	身の回りの用事	食事	睡眠	身の回りの用事	食事	睡眠	身の回りの用事	食事
総数	7.44	1.16	1.39	7.36	1.23	1.39	-0.08	0.07	0.00
男	7.53	1.04	1.36	7.47	1.11	1.36	-0.06	0.07	0.00
女	7.37	1.27	1.41	7.25	1.34	1.42	-0.12	0.07	0.01

表2-2 行動の種類別1次活動時間の推移(昭和61年~平成23年) - 週全体, 15歳以上  
(時間, 分)

	睡眠	身の回りの用事	食事
昭和61年	7.47	1.01	1.38
平成3年	7.43	1.07	1.37
平成8年	7.47	1.11	1.40
平成13年	7.39	1.15	1.38
平成18年	7.42	1.16	1.39
平成23年	7.32	1.24	1.40

図2-1 行動の種類別1次活動時間の推移(昭和61年~平成23年) - 週全体, 15歳以上



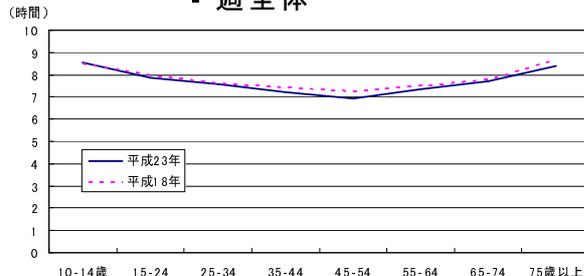
### (2) 睡眠時間

睡眠時間は、年齢階級別にみると、45~54歳で6時間57分と最も短く、10~14歳で8時間34分と最も長くなっている。平成18年と比べると、10~14歳を除く全ての年齢階級で減少となっている。(図2-2、表2-3)

表2-3 年齢階級別睡眠時間(平成18年, 23年) - 週全体  
(時間, 分)

	平成18年	平成23年	増減(H23-H18)
10~14歳	8.30	8.34	0.04
15~24歳	7.58	7.51	-0.07
25~34歳	7.37	7.36	-0.01
35~44歳	7.26	7.12	-0.14
45~54歳	7.15	6.57	-0.18
55~64歳	7.30	7.20	-0.10
65~74歳	7.48	7.43	-0.05
75歳以上	8.39	8.23	-0.16

図2-2 年齢階級別睡眠時間(平成18年, 23年) - 週全体



### 3 2次活動

#### (1) 2次活動

2次活動をみると、仕事時間は3時間35分、家事時間は1時間32分、育児時間は16分などとなっている。平成18年と比べると、仕事時間は19分減少、家事時間は5分増加、育児時間は3分増加などとなっている。(表3-1)

15歳以上の人について、昭和61年と比べると、仕事時間は39分減少、育児時間は2分増加などとなっている。(表3-2)

表3-1 行動の種類別2次活動時間(平成18年, 23年) - 週全体  
(時間, 分)

	通勤・通学	仕事	学業	家事	介護・看護	育児	買い物
平成18年	0.29	3.54	0.39	1.27	0.04	0.13	0.24
平成23年	0.29	3.35	0.40	1.32	0.04	0.16	0.25
増減(H23-H18)	0.00	-0.19	0.01	0.05	0.00	0.03	0.01

表3-2 行動の種類別2次活動時間の推移(昭和61年~平成23年)  
- 週全体, 15歳以上  
(時間, 分)

	通勤・通学	仕事	学業	家事	介護・看護	育児	買い物
昭和61年	0.34	4.26	0.32	1.41 <sup>1)</sup>	...	0.14	0.19
平成3年	0.31	4.20	0.32	1.41	0.04	0.11	0.20
平成8年	0.28	4.10	0.26	1.32	0.03	0.12	0.24
平成13年	0.28	3.57	0.24	1.35	0.05	0.14	0.26
平成18年	0.28	4.07	0.24	1.31	0.04	0.14	0.25
平成23年	0.28	3.47	0.23	1.37	0.04	0.16	0.26

1) 昭和61年の家事時間には、介護・看護時間を含む

(2) 仕事

有業者の作業時間は、6時間4分で、男性は7時間2分、女性は4時間46分となっている。平成18年と比べると、17分減少し、男性は15分減少、女性は23分減少となっている。(表3-3)

男女、年齢階級別にみると、男性は25～34歳で7時間53分と最も長く、女性は45～54歳で5時間35分と最も長くなっている。平成18年と比べると、男性は35～44歳及び55歳以上で減少、女性は45～54歳を除く全ての年齢階級で減少となっている。(図3-2, 表3-4)

有業者について、男女別に昭和61年と比べると、男性は27分減少、女性は54分減少となっている。(図3-1, 表3-3)

表3-3 男女別作業時間の推移  
(昭和61年～平成23年)  
- 週全体, 有業者 (時間, 分)

	総数	男	女
昭和61年	6.44	7.29	5.40
平成3年	6.23	7.08	5.24
平成8年	6.19	7.08	5.12
平成13年	6.05	6.55	4.57
平成18年	6.21	7.17	5.09
平成23年	6.04	7.02	4.46
増減(H23-H18)	-0.17	-0.15	-0.23

図3-1 男女別作業時間の推移  
(昭和61年～平成23年)  
- 週全体, 有業者 (時間)

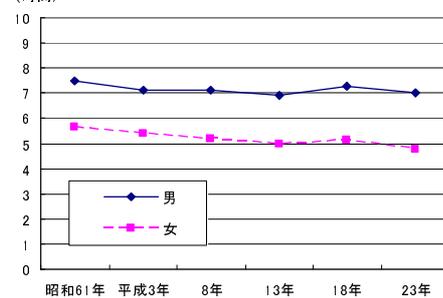
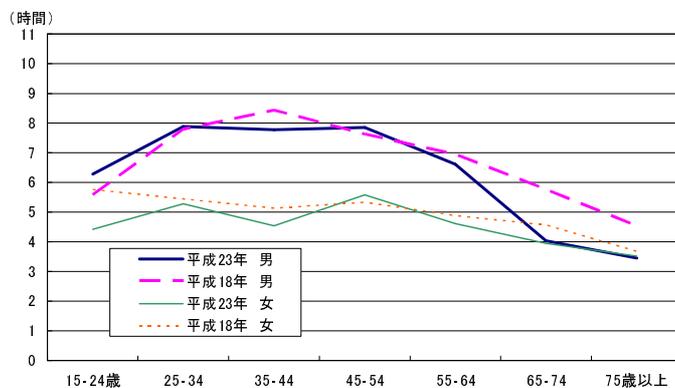


表3-4 男女、年齢階級別作業時間(平成18年, 23年) - 週全体, 有業者 (時間, 分)

	総数			男			女		
	平成18年	平成23年	増減(H23-H18)	平成18年	平成23年	増減(H23-H18)	平成18年	平成23年	増減(H23-H18)
15～24歳	5.41	5.23	-0.18	5.35	6.17	0.42	5.46	4.25	-1.21
25～34歳	6.51	6.55	0.04	7.48	7.53	0.05	5.27	5.17	-0.10
35～44歳	6.59	6.22	-0.37	8.26	7.47	-0.39	5.08	4.32	-0.36
45～54歳	6.39	6.50	0.11	7.38	7.51	0.13	5.20	5.35	0.15
55～64歳	6.03	5.48	-0.15	6.57	6.37	-0.20	4.53	4.37	-0.16
65～74歳	5.10	3.58	-1.12	5.46	4.02	-1.44	4.34	3.57	-0.37
75歳以上	4.10	3.15	-0.55	4.32	3.27	-1.05	3.41	3.31	-0.10

図3-2 男女、年齢階級別作業時間(平成18年, 23年) - 週全体, 有業者 (時間)



1) 15歳以上の人で、ふだんの状態として、収入を目的とした仕事を続けている人

### (3) 家事関連

家事関連の時間は、2時間17分で、男性は43分、女性は3時間44分となっている。平成18年と比べると、9分増加し、男性は5分増加、女性は14分増加となっている。

男女、年齢階級別にみると、男性は75歳以上で1時間41分と最も長く、女性は35～44歳で4時間40分と最も長くなっている。平成18年と比べると、男性は45～74歳を除く全ての年齢階級で増加、女性は55～64歳を除く全ての年齢階級で増加となっている。(図3-3、表3-5)

15歳以上の人について、男女別に昭和61年と比べると、男性は26分増加、女性は6分減少となっている。(図3-4、表3-6)

表3-5 男女、年齢階級別家事関連時間(平成18年、23年) - 週全体

	総数			男			女			男女差(女-男)	
	平成18年	平成23年	増減 (H23-H18)	平成18年	平成23年	増減 (H23-H18)	平成18年	平成23年	増減 (H23-H18)	平成18年	平成23年
総数	2.08	2.17	0.09	0.38	0.43	0.05	3.30	3.44	0.14	2.52	3.01
10～14歳	0.15	0.19	0.04	0.10	0.16	0.06	0.19	0.21	0.02	0.09	0.05
15～24歳	0.28	0.40	0.12	0.12	0.27	0.15	0.44	0.56	0.12	0.32	0.29
25～34歳	2.22	2.35	0.13	0.32	0.36	0.04	4.13	4.34	0.21	3.41	3.58
35～44歳	2.28	2.39	0.11	0.31	0.38	0.07	4.22	4.40	0.18	3.51	4.02
45～54歳	2.23	2.32	0.09	0.32	0.24	-0.08	4.10	4.34	0.24	3.38	4.10
55～64歳	2.35	2.30	-0.05	0.40	0.40	0.00	4.27	4.16	-0.11	3.47	3.36
65～74歳	2.46	2.45	-0.01	1.13	1.04	-0.09	4.06	4.13	0.07	2.53	3.09
75歳以上	2.17	2.44	0.27	1.19	1.41	0.22	2.54	3.23	0.29	1.35	1.42

図3-3 男女、年齢階級別家事関連時間(平成18年、23年) - 週全体

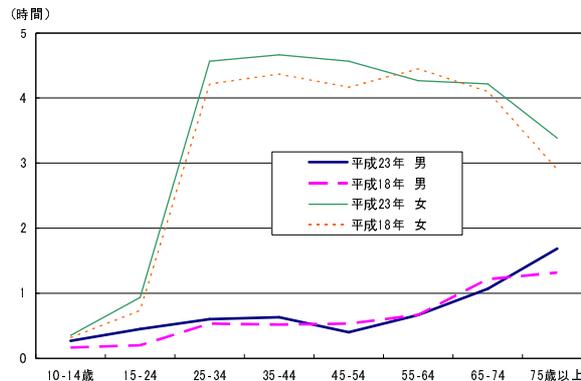
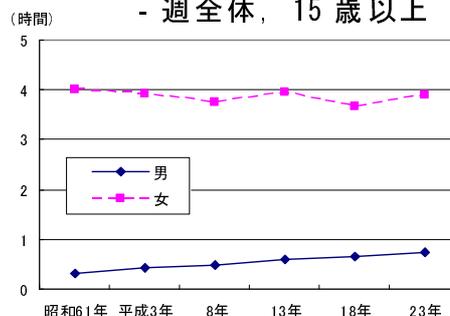


表3-6 男女別家事関連時間の推移(昭和61年～平成23年) - 週全体, 15歳以上 (時間、分)

	総数	男	女
昭和61年	2.14	0.19	4.00
平成3年	2.16	0.26	3.55
平成8年	2.11	0.29	3.45
平成13年	2.20	0.35	3.57
平成18年	2.14	0.40	3.40
平成23年	2.23	0.45	3.54



(4) 家事時間

家事時間は、男女別にみると、男性は20分、女性は2時間40分となっている。平成18年と比べると、男性は2分増加、女性は9分増加となっている。

年齢階級別にみると、男性は75歳以上で1時間5分と最も長く、女性は45～54歳で3時間33分と最も長くなっている。平成13年と比べると、男性は45～54歳を除く全ての年齢階級で増加、女性は10～14歳及び45～54歳を除く全ての年齢階級で減少となっている。男女の差は10～14歳及び45～54歳を除く全ての年齢階級で縮小となっている。(図3-5、図3-6、表3-7)

表3-7 男女、年齢階級別家事時間（平成13年、18年、23年） - 週全体

	男				女				男女差（女-男）		
	平成13年	平成18年	平成23年	増減 (H23-H18)	平成13年	平成18年	平成23年	増減 (H23-H18)	平成13年	平成18年	平成23年
	総数	0.13	0.18	0.20	0.02	2.43	2.31	2.40	0.09	2.30	2.13
10～14歳	0.06	0.03	0.08	0.05	0.05	0.08	0.05	-0.03	-0.01	0.05	-0.03
15～24歳	0.03	0.04	0.06	0.02	0.24	0.21	0.23	0.02	0.21	0.17	0.17
25～34歳	0.05	0.08	0.06	-0.02	2.25	2.08	2.07	-0.01	2.20	2.00	2.01
35～44歳	0.07	0.09	0.13	0.04	3.33	3.00	3.15	0.15	3.26	2.51	3.02
45～54歳	0.09	0.17	0.08	-0.09	3.23	3.19	3.33	0.14	3.14	3.02	3.25
55～64歳	0.18	0.17	0.20	0.03	3.37	3.24	3.22	-0.02	3.19	3.07	3.02
65～74歳	0.28	0.41	0.40	-0.01	3.31	3.19	3.19	0.00	3.03	2.38	2.39
75歳以上	0.47	0.54	1.05	0.11	2.49	2.23	2.48	0.25	2.02	1.29	1.43

図3-5 男女、年齢階級別家事時間  
(平成13年、18年、23年) - 週全体

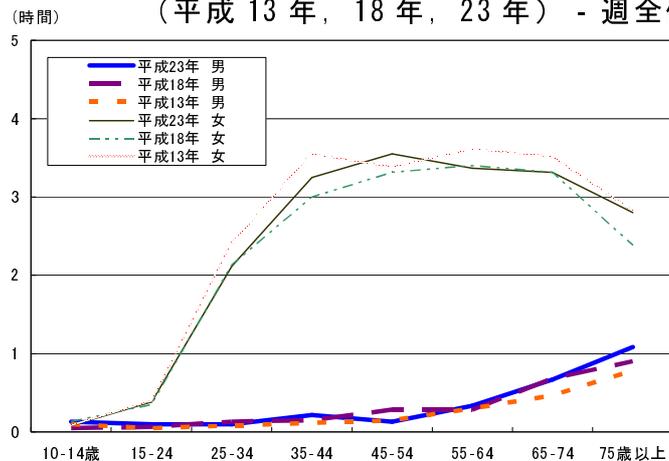
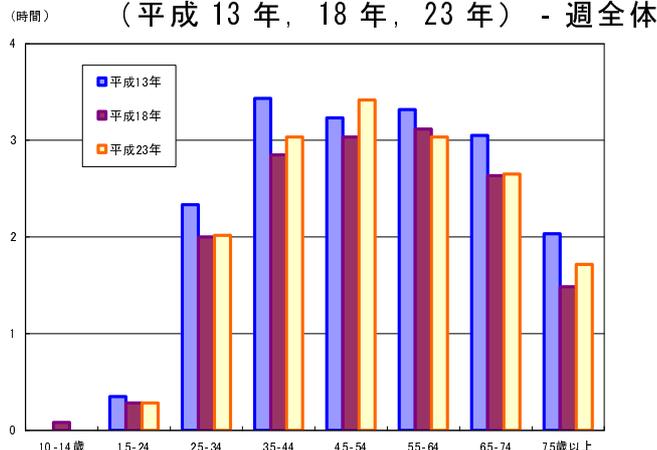


図3-6 年齢階級別家事時間の男女差の推移  
(平成13年、18年、23年) - 週全体



(5) 育児時間

育児時間は、男女別にみると、男性は6分、女性は24分となっている。平成18年と比べると、男性は2分増加、女性は3分増加となっている。

年齢階級別にみると、男性は25～34歳で19分と最も長く、女性は25～34歳で1時間55分と最も長くなっている。平成13年と比べると、男性は25～64歳で増加、女性は25～44歳、55～64歳及び75歳以上で増加となっている。男女の差は25～44歳で拡大となっている。(図3-7、図3-8、表3-8)

表3-8 男女、年齢階級別育児時間（平成13年、18年、23年） - 週全体

	男				女				男女差 (女-男)		
	平成13年	平成18年	平成23年	増減 (H23-H18)	平成13年	平成18年	平成23年	増減 (H23-H18)	平成13年	平成18年	平成23年
	総数	0.03	0.04	0.06	0.02	0.18	0.21	0.24	0.03	0.15	0.17
10～14歳	-	-	0.00	-	0.01	0.00	0.00	0.00	-	-	0.00
15～24歳	-	0.00	0.05	0.05	0.23	0.01	0.14	0.13	-	0.01	0.09
25～34歳	0.11	0.08	0.19	0.11	1.17	1.29	1.55	0.26	1.06	1.21	1.36
35～44歳	0.05	0.09	0.12	0.03	0.32	0.41	0.42	0.01	0.27	0.32	0.30
45～54歳	0.01	0.02	0.02	0.00	0.07	0.05	0.05	0.00	0.06	0.03	0.03
55～64歳	0.02	0.04	0.03	-0.01	0.05	0.09	0.06	-0.03	0.03	0.05	0.03
65～74歳	0.04	0.02	0.02	0.00	0.03	0.02	0.01	-0.01	-0.01	0.00	-0.01
75歳以上	-	-	0.02	-	0.00	0.01	0.02	0.01	-	-	0.00

図3-7 男女、年齢階級別育児時間

(時間) (平成13年、18年、23年) - 週全体

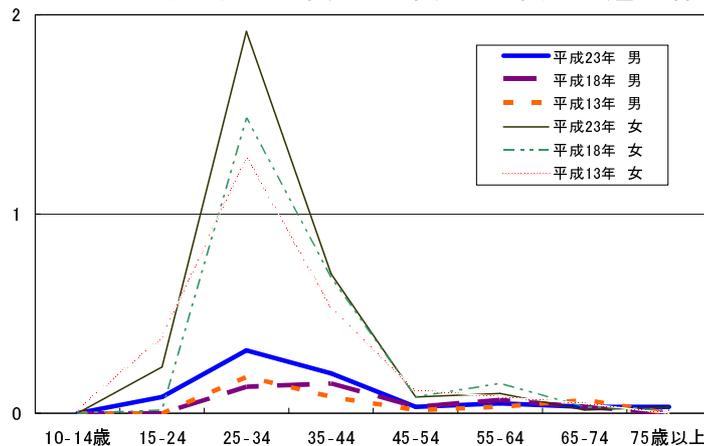
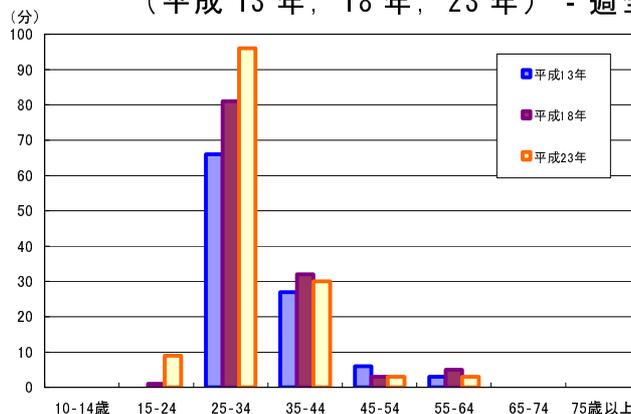


図3-8 年齢階級別育児時間の男女差の推移

(分) (平成13年、18年、23年) - 週全体



#### 4 3次活動

##### (1) 3次活動

3次活動をみると、テレビ・ラジオ・新聞・雑誌の時間は2時間27分、休養・くつろぎの時間は1時間24分、学習・自己啓発・訓練（学業以外）<sup>1)</sup>の時間は12分、趣味・娯楽の時間は42分、スポーツの時間は14分、ボランティア活動・社会参加活動<sup>2)</sup>の時間は5分、交際・付き合いの時間は17分などとなっている。平成18年と比べると、テレビ・ラジオ・新聞・雑誌の時間は6分増加、休養・くつろぎの時間は4分増加、学習・自己啓発・訓練（学業以外）の時間は1分増加、趣味・娯楽の時間は3分増加、スポーツの時間は変動しておらず、ボランティア活動・社会参加活動の時間は1分減少、交際・付き合いの時間は4分減少などとなっている。（表4-1）

15歳以上の人について、昭和61年と比べると、テレビ・ラジオ・新聞・雑誌の時間は8分増加、休養・くつろぎの時間は6分増加、学習・自己啓発・訓練（学業以外）の時間は2分減少、趣味・娯楽の時間は8分増加、スポーツの時間は2分増加、ボランティア活動・社会参加活動の時間は2分増加、交際・付き合いの時間は5分減少などとなっている。（表4-2）

表4-1 行動の種類別3次活動時間（平成18年，23年） - 週全体

(時間.分)

	移動 (通勤・通学 を除く)	テレビ・ ラジオ・ 新聞・雑誌	休養・ くつろぎ	学習・自己 啓発・訓練 (学業以外)	趣味・ 娯楽	スポーツ	ボランティア 活動・社会 参加活動	交際・ 付き合い	受診・ 療養	その他
平成18年	0.30	2.21	1.20	0.11	0.39	0.14	0.06	0.21	0.12	0.17
平成23年	0.32	2.27	1.24	0.12	0.42	0.14	0.05	0.17	0.10	0.18
増減(H23-H18)	0.02	0.06	0.04	0.01	0.03	0.00	-0.01	-0.04	-0.02	0.01

表4-2 行動の種類別3次活動時間の推移（昭和61年～平成23年）

- 週全体，15歳以上

(時間.分)

	移動 (通勤・通学 を除く)	テレビ・ ラジオ・ 新聞・雑誌	休養・ くつろぎ	学習・自己 啓発・訓練 (学業以外)	趣味・ 娯楽	スポーツ	ボランティア 活動・社会 参加活動	交際・ 付き合い	受診・ 療養	その他
昭和61年	0.20	2.21	1.18	0.13	0.34	0.10	0.03	0.23	0.11	0.16
平成3年	0.21	2.22	1.22	0.12	0.36	0.09	0.06	0.21	0.12	0.14
平成8年	0.24	2.34	1.15	0.10	0.36	0.10	0.05	0.23	0.08	0.23
平成13年	0.34	2.38	1.11	0.10	0.42	0.10	0.05	0.24	0.09	0.16
平成18年	0.30	2.24	1.20	0.10	0.38	0.12	0.06	0.21	0.12	0.17
平成23年	0.32	2.29	1.24	0.11	0.42	0.12	0.05	0.18	0.10	0.19

1) 平成18年以前の調査項目名は、学習・研究（学業以外）

2) 平成8年以前の調査項目名は、社会的活動で、昭和61年の調査項目名は、社会奉仕

(2) 休養等自由時間活動

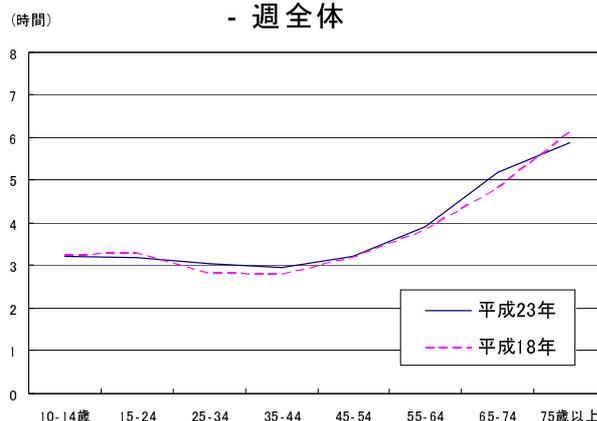
休養等自由時間活動<sup>2)</sup>の時間は、3時間51分となっている。平成18年と比べると、10分増加となっている。

年齢階級別にみると、35～44歳で2時間57分と最も短くなっている。平成18年と比べると、25～74歳で増加となっている。(図4-1, 表4-3)

表 4-3 年齢階級別休養等自由時間活動  
の時間 (平成18年, 23年)  
- 週全体

	平成18年	平成23年	増減 (H23-H18)
10歳以上	3.41	3.51	0.10
10～14歳	3.14	3.13	-0.01
15～24歳	3.16	3.12	-0.04
25～34歳	2.49	3.03	0.14
35～44歳	2.47	2.57	0.10
45～54歳	3.12	3.13	0.01
55～64歳	3.49	3.54	0.05
65～74歳	4.48	5.11	0.23
75歳以上	6.07	5.53	-0.14

図 4-1 年齢階級別休養等自由時間活動  
の時間 (平成18年, 23年)  
- 週全体



(3) 積極的自由時間活動

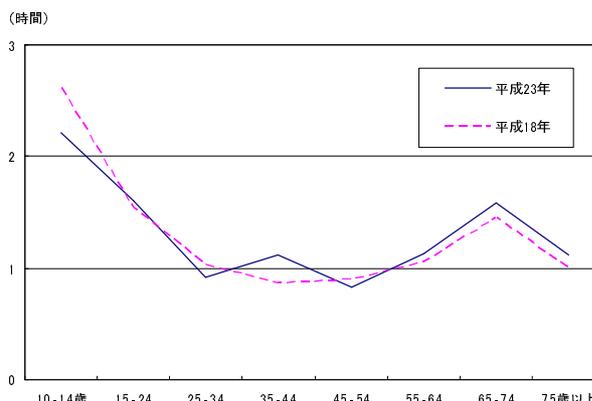
積極的自由時間活動<sup>2)</sup>の時間は、1時間13分となっている。平成18年と比べると、3分増加となっている。

年齢階級別にみると、45～54歳で50分と最も短くなっている。平成18年と比べると、15～24歳, 35～44歳及び55歳以上で増加となっている。(図4-2, 表4-4)

表 4-4 年齢階級別積極的自由時間活動  
の時間 (平成18年, 23年)  
- 週全体

	平成18年	平成23年	増減 (H23-H18)
10歳以上	1.10	1.13	0.03
10～14歳	2.37	2.13	-0.24
15～24歳	1.32	1.36	0.04
25～34歳	1.02	0.55	-0.07
35～44歳	0.52	1.07	0.15
45～54歳	0.54	0.50	-0.04
55～64歳	1.03	1.08	0.05
65～74歳	1.27	1.35	0.08
75歳以上	1.00	1.07	0.07

図 4-2 年齢階級別積極的自由時間活動  
の時間 (平成18年, 23年)  
- 週全体



1) テレビ・ラジオ・新聞・雑誌及び休養・くつろぎ

2) 学習・自己啓発・訓練(学業以外), 趣味・娯楽, スポーツ及びボランティア活動・社会参加活動

(4) 交際・付き合い

交際・付き合いの時間は、年齢階級別にみると、15～24歳で24分と最も長くなっている。平成13年と比べると、10～14歳及び65～74歳を除く全ての年齢階級で減少となっている。(図4-3, 表4-5)

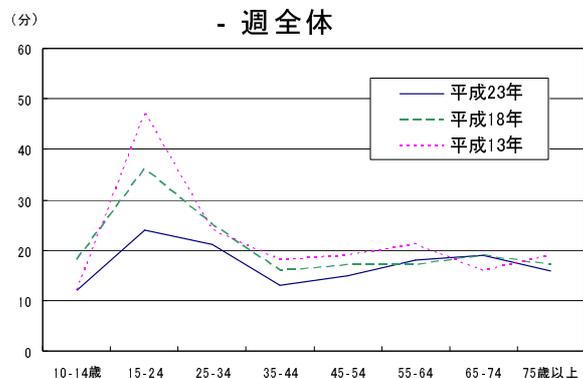
表4-5 年齢階級別交際・付き合いの時間 (平成13年, 18年, 23年)

- 週全体

(時間, 分)

	平成13年	平成18年	平成23年	増減 (H23-H18)
10～14歳	0.12	0.18	0.12	-0.06
15～24歳	0.47	0.36	0.24	-0.12
25～34歳	0.24	0.25	0.21	-0.04
35～44歳	0.18	0.16	0.13	-0.03
45～54歳	0.19	0.17	0.15	-0.02
55～64歳	0.21	0.17	0.18	0.01
65～74歳	0.16	0.19	0.19	0.00
75歳以上	0.19	0.17	0.16	-0.01

図4-3 年齢階級別交際・付き合いの時間 (平成13年, 18年, 23年)



## 【生活行動に関する結果】

### 1 概況

生活行動の種類別の行動者率<sup>1)</sup>をみると、学習・自己啓発・訓練<sup>2)</sup>は35.2%、ボランティア活動<sup>3)</sup>は28.9%、スポーツ<sup>4)</sup>は62.7%、趣味・娯楽は86.7%、旅行・行楽<sup>5)</sup>は74.5%となっている。平成18年と比べると、学習・自己啓発・訓練は1.7ポイント上昇、ボランティア活動は2.2ポイント上昇、スポーツは1.9ポイント低下、趣味・娯楽は1.0ポイント上昇、旅行・行楽は1.6ポイント上昇となっている。(表1-1)

15歳以上の人について、昭和61年と比べると、学習・自己啓発・訓練は1.2ポイント低下、ボランティア活動は0.4ポイント上昇、スポーツは14.5ポイント低下、趣味・娯楽は1.2ポイント低下、旅行・行楽は4.2ポイント低下となっている。(図1-1, 表1-2)

表 1-1 行動の種類別行動者率（平成18年，23年）

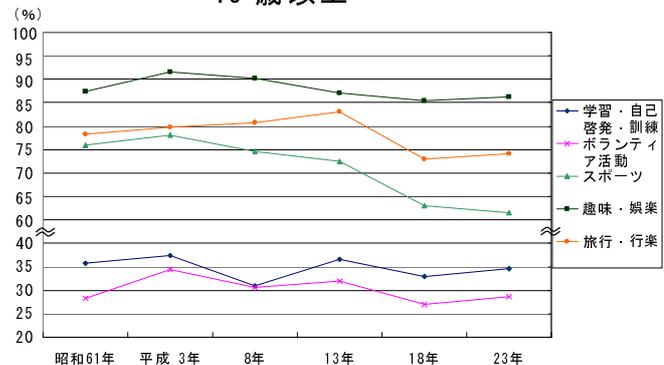
(%、差はポイント)

	学習・自己啓発・訓練	ボランティア活動	スポーツ	趣味・娯楽	旅行・行楽
平成18年	33.5	26.7	64.6	85.7	72.9
平成23年	35.2	28.9	62.7	86.7	74.5
差(H23-H18)	1.7	2.2	-1.9	1.0	1.6

表 1-2 行動の種類別行動者率の推移  
(昭和61年～平成23年)  
- 15歳以上 (%)

	学習・自己啓発・訓練	ボランティア活動	スポーツ	趣味・娯楽	旅行・行楽
昭和61年	35.8	28.3	76.0	87.4	78.3
平成3年	37.4	34.5	78.1	91.5	79.7
平成8年	30.9	30.6	74.7	90.2	80.7
平成13年	36.5	31.9	72.4	87.0	83.1
平成18年	33.0	26.9	63.1	85.4	72.9
平成23年	34.6	28.7	61.5	86.2	74.1

図 1-1 行動の種類別行動者率の推移  
(昭和61年～平成23年)  
- 15歳以上 (%)



- 10歳以上人口に占める行動者数（過去1年間に該当する種類の活動を行った人の数）の割合
- 自分の教養を高めるためや、仕事につくため、現在の仕事に役立てるためなどの目的で行うもので、社会人の職場研修や、学生が学業で行うものは除き、クラブ活動や部活動は含む  
平成18年以前の調査項目名は、学習・研究
- 報酬を目的としないで自分の労力、技術、時間を提供して地域社会や個人・団体の福祉増進のために行うもの
- 職業スポーツ選手が仕事で行うものや、学生が体育の授業で行うものは除き、クラブ活動や部活動は含む
- 旅行は1泊2日以上、行楽は宿泊を伴わず半日以上かけて行うもので、仕事や学業などで行うものは含む

## 2 学習・自己啓発・訓練

学習・自己啓発・訓練の行動者数<sup>1)</sup>は88万8千人で、男性は41万7千人、女性は47万1千人となっている。

行動者率は、男女別にみると、男性は34.3%、女性は36.0%となっており、女性が男性より1.7ポイント高くなっている。平成18年と比べると、男女共に1.7ポイント上昇となっている。

種類別にみると、パソコンなどの情報処理<sup>2)</sup>が12.0%と最も高く、次いで芸術・文化<sup>3)</sup>が10.5%、家政・家事<sup>4)</sup>が8.6%などとなっている。平成18年と比べると、英語<sup>5)</sup>が1.5ポイント上昇、パソコンなどの情報処理が1.4ポイント上昇、商業実務・ビジネス関係<sup>6)</sup>が1.4ポイント低下などとなっている。

男女別にみると、男性はパソコンなどの情報処理が14.2%と最も高く、次いで英語が9.8%、人文・社会・自然科学<sup>7)</sup>が8.4%などとなっている。女性は家政・家事が13.2%と最も高く、次いで芸術・文化が12.5%、パソコンなどの情報処理が9.8%などとなっている。(表2-1)

表2-1 学習・自己啓発・訓練の種類別行動者数・行動者率・平均行動日数<sup>8)</sup>

	総数				男				女			
	行動者数 (千人)	行動者率 (%)	平均行動日数		行動者数 (千人)	行動者率 (%)	平均行動日数		行動者数 (千人)	行動者率 (%)	平均行動日数	
			差(H23-H18) (ポイント)	(日)			差(H23-H18) (ポイント)	(日)			差(H23-H18) (ポイント)	(日)
総数	888	35.2	1.7	-	417	34.3	1.7	-	471	36.0	1.7	-
外国語	250	9.9	2.4	-	131	10.8	3.3	-	119	9.1	1.5	-
英語	217	8.6	1.5	87.6	119	9.8	2.6	82.9	98	7.5	0.5	93.4
英語以外の外国語	62	2.4	1.1	82.6	28	2.3	1.0	83.9	34	2.6	1.3	81.5
商業実務・ ビジネス関係(総数)	368	14.6	0.3	-	216	17.8	-0.9	-	152	11.6	1.4	-
パソコン等の情報処理	302	12.0	1.4	86.6	173	14.2	0.6	101.9	129	9.8	2.0	66.3
商業実務・ビジネス関係	131	5.2	-1.4	60.4	85	7.0	-2.7	64.6	46	3.5	-0.2	52.5
介護関係	92	3.6	-0.6	61.5	28	2.3	-0.2	59.3	64	4.9	-0.9	62.4
家政・家事	218	8.6	0.3	106.7	46	3.7	0.6	126.8	172	13.2	0.1	101.6
人文・社会・自然科学	171	6.8	0.9	86.9	102	8.4	0.6	84.4	69	5.2	1.1	90.6
芸術・文化	265	10.5	0.1	70.4	101	8.3	-0.3	76.7	163	12.5	0.4	66.6
その他	195	7.7	0.9	-	95	7.8	1.3	-	100	7.6	0.6	-

1) 過去1年間に該当する種類の活動を行った人(10歳以上)の数

2) パソコンソフトの使用法、プログラミングなど

3) 絵画、グラフィックデザイン、音楽の一般理論、俳優養成、写真、書道など

4) 家庭経営学、ししゅうなど

5) 英会話、英語検定など

6) 銀行実務、税務、経営実務、珠算など

7) 文学、憲法、数学、農学、機械工学、医学関係など

8) 行動者について平均した過去1年間の行動日数

年齢階級別にみると、15～24歳で48.9%と最も高くなっている。平成18年と比べると、25～34歳及び45～54歳を除く全ての年齢階級で上昇となっており、男女別にみると、10～54歳で女性の方が高くなっている。(図2-1、図2-2、表2-2、表2-3)

表2-2 学習・自己啓発・訓練の年齢階級別行動者率  
(平成18年、23年)

	平成18年	平成23年	差 (H23-H18)
10～14歳	41.7	46.6	4.9
15～24歳	40.7	48.9	8.2
25～34歳	41.6	34.4	-7.2
35～44歳	35.3	36.4	1.1
45～54歳	40.6	40.3	-0.3
55～64歳	30.3	31.5	1.2
65～74歳	25.3	27.9	2.6
75歳以上	12.2	24.8	12.6

図2-1 学習・自己啓発・訓練の年齢階級別行動者率  
(平成18年、23年)

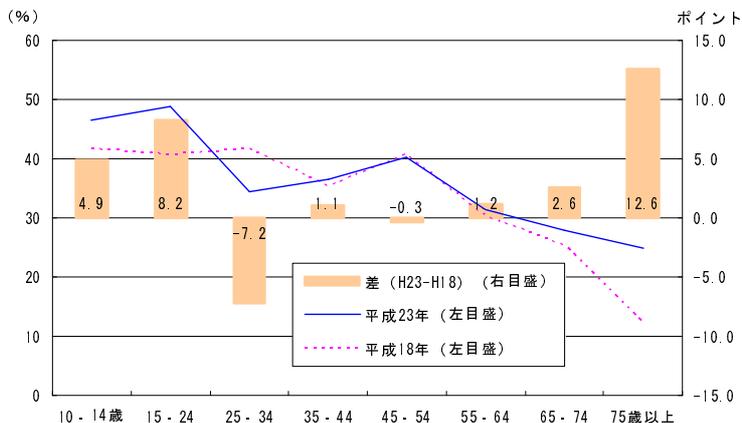
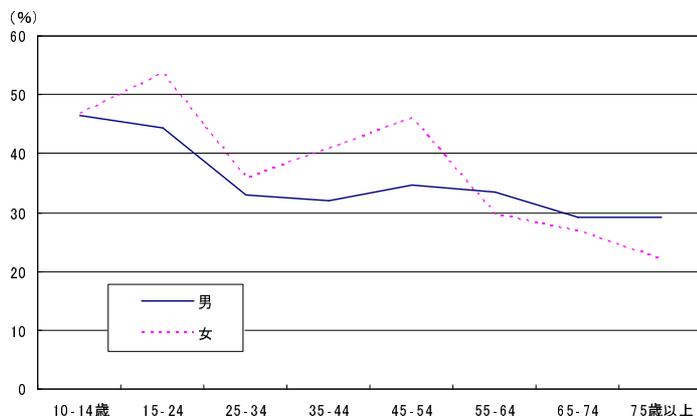


表2-3 学習・自己啓発・訓練の男女、年齢階級別行動者率

	男	女	差 (男-女)
10～14歳	46.5	46.7	-0.2
15～24歳	44.4	53.5	-9.1
25～34歳	33.0	35.7	-2.7
35～44歳	32.1	40.7	-8.6
45～54歳	34.6	46.0	-11.4
55～64歳	33.4	29.7	3.7
65～74歳	29.2	26.7	2.5
75歳以上	29.1	22.1	7.0

図2-2 学習・自己啓発・訓練の男女、年齢階級別行動者率



### 3 ボランティア活動

ボランティア活動の行動者数は73万1千人で、男性は34万1千人、女性は38万9千人となっている。

行動者率は、男女別にみると、男性は28.1%、女性は29.7%となっており、女性が男性より1.6ポイント高くなっている。平成18年と比べると、男性は2.0ポイント上昇、女性は2.4ポイント上昇となっている。

種類別にみると、まちづくりのための活動<sup>1)</sup>が14.0%と最も高く、次いで子供を対象とした活動<sup>2)</sup>が9.4%などとなっている。平成18年と比べると、子供を対象とした活動が2.3ポイント上昇などとなっている。

男女別にみると、男性はまちづくりのための活動が13.7%と最も高く、次いで子供を対象とした活動が6.5%などとなっている。女性はまちづくりのための活動が14.2%と最も高く、次いで子供を対象とした活動が12.1%などとなっている。(表3-1)

表3-1 ボランティア活動の種類別行動者数・行動者率・平均行動日数

	総数				男				女			
	行動者数 (千人)	行動者率		平均行動日数 (日)	行動者数 (千人)	行動者率		平均行動日数 (日)	行動者数 (千人)	行動者率		平均行動日数 (日)
		(%)	差(H23-H18) (ポイント)			(%)	差(H23-H18) (ポイント)			(%)	差(H23-H18) (ポイント)	
総数	731	28.9	2.2	-	341	28.1	2.0	-	389	29.7	2.4	-
健康や医療サービスに関 係した活動	85	3.4	0.4	10.0	44	3.6	1.1	7.6	41	3.1	-0.3	12.4
高齢者を対象とした活動	114	4.5	-0.9	33.8	42	3.5	-0.5	36.3	72	5.5	-1.2	32.3
障害者を対象とした活動	30	1.2	-0.5	25.2	12	1.0	-0.5	18.8	18	1.4	-0.4	29.6
子供を対象とした活動	238	9.4	2.3	23.1	79	6.5	0.4	25.2	159	12.1	4.2	22.1
スポーツ・文化・芸術・ 学術に関係した活動	94	3.7	-0.8	36.2	59	4.8	-0.3	44.3	35	2.7	-1.3	22.6
まちづくりのための活動	353	14.0	0.3	12.5	167	13.7	-1.2	11.9	186	14.2	1.7	12.9
安全な生活のための活動	111	4.4	-0.9	20.7	57	4.7	-1.4	25.5	54	4.1	-0.4	15.7
自然や環境を守るための 活動	121	4.8	-0.5	24.9	68	5.6	0.2	19.2	53	4.0	-1.1	32.6
災害に関係した活動	49	2.0	0.8	4.2	20	1.6	0.4	5.1	29	2.2	1.1	3.6
国際協力に関係した活動	25	1.0	-0.8	10.8	15	1.2	-0.6	11.7	10	0.8	-1.0	9.6
その他	55	2.2	-0.8	-	28	2.3	-0.7	-	26	2.0	-1.0	-

1) 道路に花を植える、駅の自転車置き場の整理、道路・公園などの清掃など

2) 赤ちゃん相談・子育てサロン、児童遊園地などでのレクリエーション指導、子供会や子育て団体の援助・指導など

年齢階級別にみると、45～54歳で38.0%と最も高くなっている。平成18年と比べると、10～14歳及び25～64歳で上昇となっており、男女別にみると、10～14歳及び35～64歳で女性の方が高くなっている。（図3-1、図3-2、表3-2、表3-3）

表3-2 ボランティア活動の  
年齢階級別行動者率  
(平成18年, 23年)

(%、差はポイント)

	平成18年	平成23年	差 (H23-H18)
10～14歳	23.8	32.5	8.7
15～24歳	19.3	18.5	-0.8
25～34歳	15.1	24.6	9.5
35～44歳	29.8	33.3	3.5
45～54歳	32.0	38.0	6.0
55～64歳	31.0	31.4	0.4
65～74歳	37.8	30.8	-7.0
75歳以上	22.0	20.3	-1.7

図3-1 ボランティア活動の  
年齢階級別行動者率  
(平成18年, 23年)

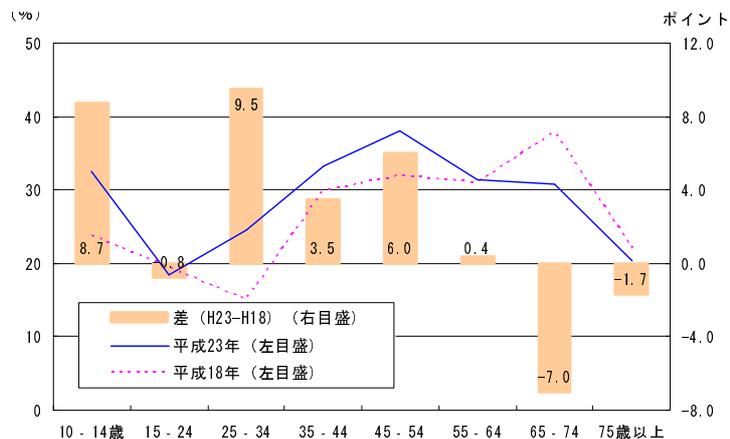
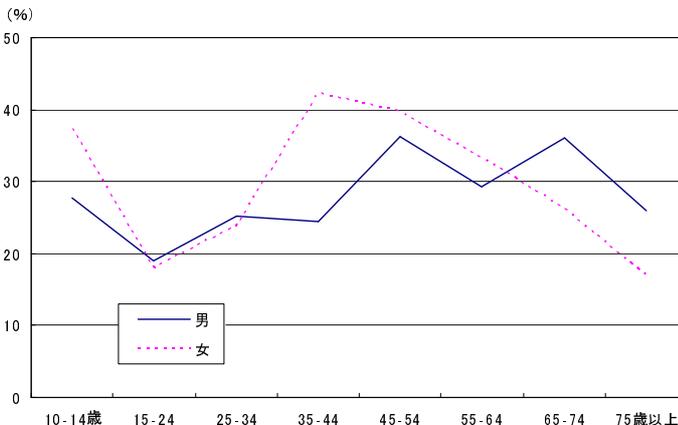


表3-3 ボランティア活動の  
男女、年齢階級別行動者率

(%、差はポイント)

	男	女	差 (男-女)
10～14歳	27.7	37.5	-9.8
15～24歳	18.9	18.0	0.9
25～34歳	25.2	23.9	1.3
35～44歳	24.4	42.3	-17.9
45～54歳	36.2	39.7	-3.5
55～64歳	29.3	33.4	-4.1
65～74歳	36.1	26.2	9.9
75歳以上	25.9	16.8	9.1

図3-2 ボランティア活動の  
男女、年齢階級別行動者率



#### 4 スポーツ

スポーツの行動者数は158万4千人で、男性は83万9千人、女性は74万4千人となっている。

行動者率は、男女別にみると、男性は69.1%、女性は56.9%となっており、男性が女性より12.2ポイント高くなっている。平成18年と比べると、男性は1.0ポイント低下、女性は2.6ポイント低下となっている。

種類別にみると、ウォーキング・軽い体操が37.4%と最も高く、次いでボウリングが14.8%、つりが12.2%などとなっている。平成18年と比べると、ウォーキング・軽い体操が2.9ポイント上昇、登山・ハイキングが1.5ポイント上昇などとなっているが、ボウリングが2.6ポイント低下、卓球が2.0ポイント低下などとなっており、多くの種類で低下となっている。

男女別にみると、男性はウォーキング・軽い体操が35.9%と最も高く、次いでつりが19.7%、ボウリングが17.6%などとなっている。女性はウォーキング・軽い体操が38.9%と最も高く、次いでボウリングが12.1%、器具を使ったトレーニングが10.2%などとなっている。(表4-1)

表4-1 スポーツの種類別行動者数・行動者率・平均行動日数

	総数				男				女			
	行動者数 (千人)	行動者率		平均行動日数 (日)	行動者数 (千人)	行動者率		平均行動日数 (日)	行動者数 (千人)	行動者率		平均行動日数 (日)
		(%)	差(H23-H18) (ポイント)			(%)	差(H23-H18) (ポイント)			(%)	差(H23-H18) (ポイント)	
総数	1584	62.7	-1.9	-	839	69.1	-1.0	-	744	56.9	-2.6	-
野球	214	8.5	0.6	43.9	185	15.2	2.3	48.5	29	2.2	-1.1	14.5
ソフトボール	114	4.5	-0.7	38.9	100	8.2	-0.6	38.6	14	1.1	-0.8	41.1
バレーボール	124	4.9	-1.1	62.1	52	4.3	-0.1	54.9	71	5.5	-1.9	67.4
バスケットボール	72	2.8	0.0	48.2	48	3.9	0.6	35.8	24	1.8	-0.6	72.3
サッカー	128	5.1	0.0	72.3	110	9.0	0.2	77.8	18	1.4	-0.3	38.7
卓球	115	4.6	-2.0	27.4	71	5.8	-1.1	29.8	44	3.4	-2.9	23.5
テニス	87	3.4	-1.1	70.1	55	4.5	-0.2	55.9	32	2.5	-1.7	94.3
バドミントン	140	5.6	-1.1	30.1	65	5.4	-0.1	31.7	75	5.8	-2.0	28.7
ゴルフ	206	8.1	-0.8	36.4	179	14.8	-1.3	39.5	26	2.0	-0.2	13.7
柔道	14	0.6	0.0	112.7	13	1.1	0.1	117.6	1	0.1	-0.1	29.5
剣道	11	0.4	-0.3	67.4	8	0.6	-0.4	71.6	3	0.2	-0.2	54.4
ゲートボール	21	0.8	-0.1	61.9	11	0.9	-0.3	53.0	10	0.7	0.1	73.2
ボウリング	373	14.8	-2.6	5.9	214	17.6	-2.0	6.8	158	12.1	-3.2	4.7
つり	307	12.2	-1.0	11.5	240	19.7	-1.0	13.0	68	5.2	-1.0	6.3
水泳	266	10.5	-1.6	31.2	161	13.2	-0.8	29.4	105	8.0	-2.3	33.9
スキー・スノーボード	102	4.0	-1.7	7.2	67	5.5	-1.4	6.5	35	2.6	-1.9	8.7
登山・ハイキング	220	8.7	1.5	9.4	125	10.3	2.5	7.3	95	7.2	0.5	12.1
サイクリング	170	6.7	0.8	60.4	97	8.0	1.7	54.5	73	5.6	0.1	68.2
ジョギング・マラソン	217	8.6	1.4	83.0	157	12.9	2.8	87.3	59	4.5	0.0	71.7
ウォーキング・軽い体操	945	37.4	2.9	119.0	436	35.9	5.0	126.7	509	38.9	1.2	112.3
器具を使ったトレーニング	264	10.5	-0.3	79.8	130	10.7	-1.5	89.2	134	10.2	0.7	70.5
その他	157	6.2	-1.9	-	71	5.8	-1.6	-	86	6.6	-2.2	-

年齢階級別にみると、10～14歳で85.6%と最も高くなっている。平成18年と比べると、55～64歳及び75歳以上を除く全ての年齢階級で低下となっており、男女別にみると、35～44歳を除く全ての年齢階級で男性の方が高くなっている。（図4-1、図4-2、表4-2、表4-3）

表4-2 スポーツの年齢階級別行動者率（平成18年、23年）

	総数		
	平成18年	平成23年	差 (H23-H18)
10～14歳	90.4	85.6	-4.8
15～24歳	76.2	74.7	-1.5
25～34歳	68.5	63.7	-4.8
35～44歳	67.5	64.7	-2.8
45～54歳	65.8	61.3	-4.5
55～64歳	61.5	63.8	2.3
65～74歳	60.8	58.9	-1.9
75歳以上	36.3	42.7	6.4

図4-1 スポーツの年齢階級別行動者率（平成18年、23年）

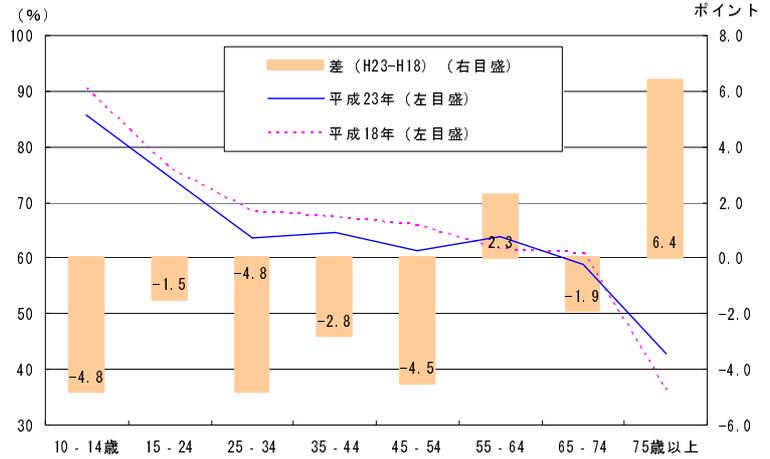
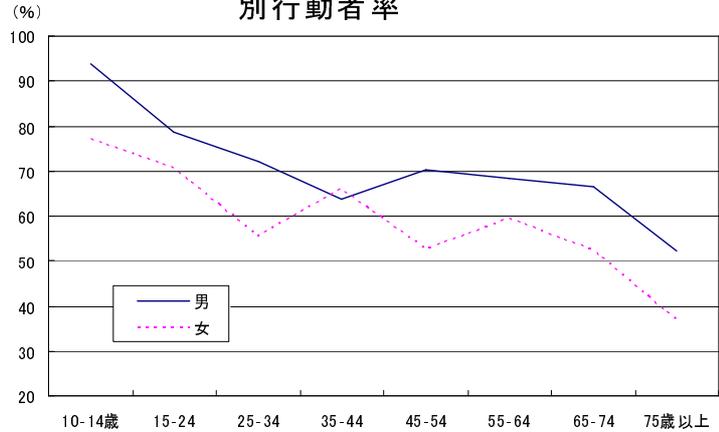


表4-3 スポーツの男女、年齢階級別行動者率

	差はポイント		
	男	女	差 (男-女)
10～14歳	93.8	77.1	16.7
15～24歳	78.6	70.6	8.0
25～34歳	72.0	55.4	16.6
35～44歳	63.6	65.8	-2.2
45～54歳	70.2	52.7	17.5
55～64歳	68.3	59.5	8.8
65～74歳	66.5	52.2	14.3
75歳以上	52.2	36.7	15.5

図4-2 スポーツの男女、年齢階級別行動者率



## 5 趣味・娯楽

趣味・娯楽の行動者数は218万9千人で、男性は105万3千人、女性は113万5千人となっている。

行動者率は、男女別にみると、男女共に86.7%となっている。平成18年と比べると、男性は1.0ポイント上昇、女性は0.9ポイント上昇となっている。

種類別にみると、CDなどによる音楽鑑賞が47.5%と最も高く、次いでDVDなどによる映画鑑賞が38.9%、趣味としての読書が38.8%などとなっている。平成18年と比べると、スポーツ観覧が6.2ポイント上昇、遊園地、動植物園、水族館などの見物が2.7ポイント上昇、DVDなどによる映画鑑賞が5.9ポイント低下、映画鑑賞が4.1ポイント低下などとなっている。

男女別にみると、男性はCDなどによる音楽鑑賞が45.8%と最も高く、次いでDVDなどによる映画鑑賞が40.7%、テレビゲーム・パソコンゲームが39.5%などとなっている。女性はCDなどによる音楽鑑賞が49.0%と最も高く、次いで趣味としての読書が42.9%、遊園地、動植物園、水族館などの見物が38.1%などとなっている。(表5-1)

表5-1 趣味・娯楽の種類別行動者数・行動者率・平均行動日数

	総数				男				女			
	行動者数 (千人)	行動者率		平均行動日数 (日)	行動者数 (千人)	行動者率		平均行動日数 (日)	行動者数 (千人)	行動者率		平均行動日数 (日)
		(%)	差(12-18) [ポイント]			(%)	差(12-18) [ポイント]			(%)	差(12-18) [ポイント]	
総数	2189	86.7	1.0	-	1053	86.7	1.0	-	1135	86.7	0.9	-
スポーツ観覧	696	27.6	6.2	12.2	397	32.6	6.3	13.4	299	22.8	5.9	10.6
美術鑑賞	464	18.4	-2.0	7.9	183	15.1	-1.5	10.2	280	21.4	-2.5	6.4
演芸・演劇・舞踊鑑賞	254	10.1	-1.7	7.2	85	7.0	0.8	9.8	169	12.9	-4.0	5.9
映画鑑賞	870	34.5	-4.1	6.8	378	31.1	-3.3	7.4	492	37.6	-4.9	6.2
クラシック音楽鑑賞	222	8.8	-0.9	7.7	72	5.9	0.3	9.2	151	11.5	-2.0	7.1
ポピュラー音楽・歌謡曲鑑賞	350	13.8	1.5	10.8	115	9.5	1.6	13.2	235	17.9	1.5	9.6
CD等による音楽鑑賞	1199	47.5	-2.6	137.1	557	45.8	-1.5	131.5	642	49.0	-3.7	142.0
DVD等による映画鑑賞	983	38.9	-5.9	48.6	495	40.7	-5.2	51.6	488	37.3	-6.5	45.5
楽器の演奏	254	10.1	0.2	78.7	98	8.1	0.3	78.1	156	11.9	0.1	79.2
邦楽	54	2.1	0.2	66.0	21	1.8	0.7	73.4	33	2.5	-0.1	60.9
コーラス・声楽	75	3.0	0.0	41.5	17	1.4	0.6	50.9	58	4.4	-0.7	38.8
邦舞・おどり	35	1.4	-0.4	61.2	6	0.5	-0.4	84.4	29	2.2	-0.4	56.0
洋舞・社交ダンス	35	1.4	0.2	70.4	8	0.6	0.4	36.3	28	2.1	0.0	80.4
書道	123	4.9	0.6	49.8	39	3.2	1.4	60.2	84	6.4	-0.3	44.9
華道	75	3.0	0.2	34.5	2	0.1	-0.1	15.8	73	5.6	0.4	35.0
茶道	40	1.6	-0.6	26.6	4	0.4	-0.2	16.6	35	2.7	-1.1	27.9
和裁・洋裁	151	6.0	-0.7	28.9	2	0.2	-0.1	4.2	149	11.4	-1.2	29.3
編み物・手芸	256	10.1	-1.6	42.5	3	0.2	-0.2	10.8	253	19.3	-2.8	42.7
趣味としての料理・菓子作り	406	16.1	-0.8	24.0	59	4.8	1.1	23.9	347	26.5	-2.5	24.0
園芸・庭いじり・ガーデニング	706	27.9	-0.4	66.5	267	22.0	2.1	58.2	439	33.5	-2.5	71.6
日曜大工	251	9.9	-0.2	15.0	211	17.4	-0.1	15.5	40	3.0	-0.4	12.5
絵画・彫刻の制作	83	3.3	-0.1	42.4	27	2.2	-0.6	61.4	56	4.3	0.4	32.7
陶芸・工芸	50	2.0	-0.4	23.3	15	1.2	0.0	19.8	35	2.7	-0.7	24.8
写真の撮影・プリント	640	25.3	-0.4	24.7	273	22.5	-1.4	22.9	367	28.0	0.7	26.1
詩・和歌・俳句・小説等の創作	42	1.7	-0.1	64.2	16	1.3	0.1	57.1	26	2.0	-0.5	68.8
趣味としての読書	980	38.8	-1.4	94.3	419	34.4	0.7	110.3	562	42.9	-3.2	82.4
囲碁	36	1.4	-0.5	40.4	33	2.7	-0.7	37.7	2	0.2	-0.3	79.2
将棋	87	3.5	0.2	31.0	81	6.7	0.4	30.0	7	0.5	-0.1	42.9
パチンコ	286	11.3	0.2	47.6	230	19.0	0.1	45.9	56	4.2	0.2	54.7
カラオケ	715	28.3	-0.1	13.9	359	29.5	1.2	16.2	356	27.2	-1.4	11.5
テレビゲーム・パソコンゲーム	841	33.3	0.8	122.8	479	39.5	1.2	132.5	361	27.6	0.6	109.8
遊園地、動植物園、水族館等の見物	864	34.2	2.7	4.7	365	30.0	1.6	5.0	499	38.1	3.7	4.5
キャンプ	165	6.5	-0.6	4.0	98	8.0	-0.1	4.2	68	5.2	-0.9	3.7
その他	184	7.3	-3.0	-	93	7.7	-1.5	-	90	6.9	-4.4	-

年齢階級別にみると、15～24歳で96.3%と最も高くなっている。平成18年と比べると、25～34歳及び55～64歳を除く全ての年齢階級で上昇となっており、男女別にみると、10～44歳で女性の方が高くなっており、45歳以上で男性の方が高くなっている。(図5-1, 図5-2, 表5-2, 表5-3)

表5-2 趣味・娯楽の年齢階級別  
行動者率(平成18年, 23年)

	平成18年	平成23年	差 (H23-H18)
10～14歳	91.5	95.2	3.7
15～24歳	94.3	96.3	2.0
25～34歳	91.0	89.3	-1.7
35～44歳	89.7	91.0	1.3
45～54歳	90.3	91.2	0.9
55～64歳	87.4	86.0	-1.4
65～74歳	80.8	81.0	0.2
75歳以上	57.0	68.2	11.2

図5-1 趣味・娯楽の年齢階級別  
行動者率(平成18年, 23年)

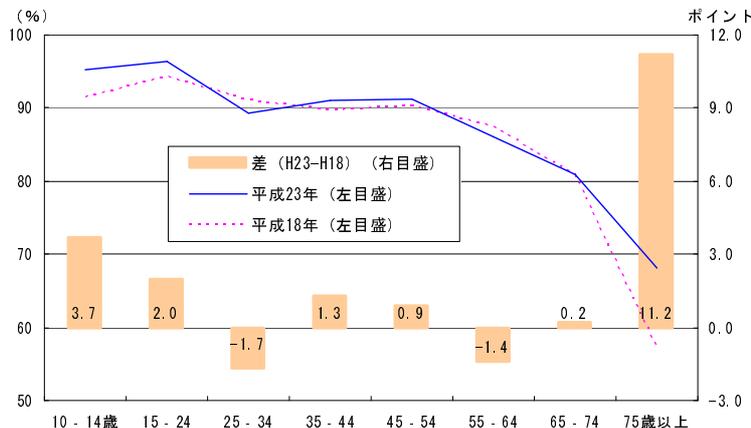
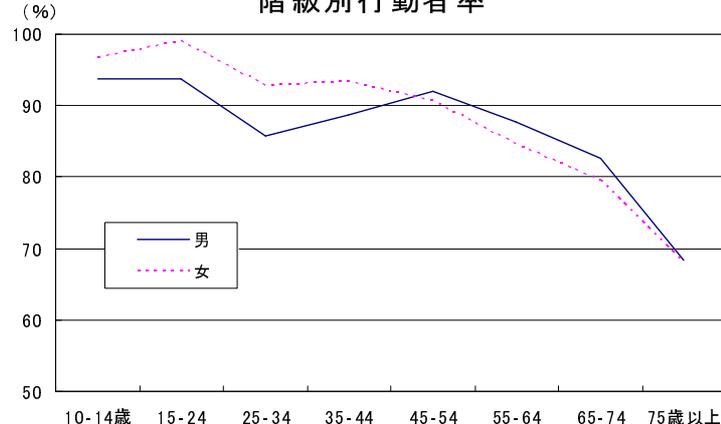


表5-3 趣味・娯楽の男女、年齢  
階級別行動者率

	男	女	差 (男-女)
10～14歳	93.8	96.6	-2.8
15～24歳	93.7	99.0	-5.3
25～34歳	85.8	92.8	-7.0
35～44歳	88.7	93.3	-4.6
45～54歳	91.9	90.6	1.3
55～64歳	87.6	84.5	3.1
65～74歳	82.7	79.5	3.2
75歳以上	68.4	68.0	0.4

図5-2 趣味・娯楽の男女、年齢  
階級別行動者率



## 6 旅行・行楽

旅行・行楽の行動者数は188万1千人で、男性は89万9千人、女性は98万2千人となっている。

行動者率は、男女別にみると、男性は74.0%、女性は75.0%となっており、女性が男性より1.0ポイント高くなっている。平成18年と比べると、男性は2.4ポイント上昇、女性は0.8ポイント上昇となっている。

種類別にみると、行楽（日帰り）が60.7%、観光旅行では国内が44.4%、海外が6.4%などとなっている。平成18年と比べると、帰省・訪問などの旅行が3.6ポイント上昇、行楽（日帰り）が1.8ポイント上昇、観光旅行（国内）が0.1ポイント上昇、観光旅行（海外）が0.5ポイント上昇などとなっている。

男女別にみると、男性は行楽（日帰り）が59.0%、観光旅行（国内）が44.1%、観光旅行（海外）が5.9%などとなっている。女性は行楽（日帰り）が62.3%、観光旅行（国内）が44.7%、観光旅行（海外）が6.9%などとなっている。（表6-1）

表6-1 旅行・行楽の種類別行動者数・行動者率・平均行動日数

	総数			男			女		
	行動者数 (千人)	行動者率		行動者数 (千人)	行動者率		行動者数 (千人)	行動者率	
		(%)	差(H23-H18) (ポイント)		(%)	差(H23-H18) (ポイント)		(%)	差(H23-H18) (ポイント)
総数	1881	74.5	1.6	899	74.0	2.4	982	75.0	0.8
行楽(日帰り)	1532	60.7	1.8	717	59.0	2.9	815	62.3	0.8
旅行 総数	1498	59.3	0.9	723	59.5	0.5	775	59.2	1.3
（1）国内 観光旅行	1121	44.4	0.1	536	44.1	1.3	585	44.7	-0.9
泊 帰省・訪問等の旅行	734	29.1	3.6	357	29.4	4.3	377	28.8	2.9
2 業務出張・研修・その他	345	13.7	-0.8	253	20.8	0.2	92	7.0	-1.9
以 総数	204	8.1	0.9	105	8.6	1.0	99	7.6	0.7
上 海外 観光旅行	162	6.4	0.5	72	5.9	0.6	90	6.9	0.5
） 業務出張・研修・その他	52	2.1	0.3	42	3.5	0.7	10	0.8	0.0

年齢階級別にみると、25～34歳で81.9%と最も高くなっている。平成18年と比べると、10～24歳、35～44歳、55～64歳及び75歳以上で上昇となっており、男女別にみると、15～44歳及び55～74歳で女性の方が高くなっている。(図6-1、図6-2、表6-2、表6-3)

表 6-2 旅行・行楽の年齢階級別  
行動者率(平成18年, 23年)

(%、差はポイント)

	平成18年	平成23年	差 (H23-H18)
10～14歳	73.9	80.7	6.8
15～24歳	66.4	74.9	8.5
25～34歳	84.7	81.9	-2.8
35～44歳	75.2	80.0	4.8
45～54歳	78.9	77.3	-1.6
55～64歳	75.5	77.3	1.8
65～74歳	70.3	69.2	-1.1
75歳以上	50.6	55.2	4.6

図 6-1 旅行・行楽の年齢階級別  
行動者率(平成18年, 23年)

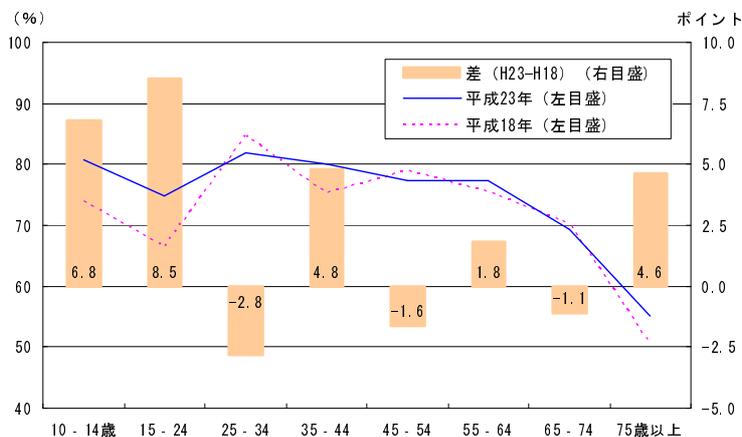


表 6-3 旅行・行楽の男女,  
年齢階級別行動者率

(%、差はポイント)

	男	女	差 (男-女)
10～14歳	81.1	80.4	0.7
15～24歳	69.3	80.8	-11.5
25～34歳	80.5	83.2	-2.7
35～44歳	76.1	83.9	-7.8
45～54歳	77.9	76.6	1.3
55～64歳	77.0	77.5	-0.5
65～74歳	68.3	70.0	-1.7
75歳以上	59.4	52.6	6.8

図 6-2 旅行・行楽の男女,  
年齢階級別行動者率

